

Title	国際化過程における海外組織展開の若干の考察
Sub Title	
Author	井田隆章(Ida, Takaaki) 小林規威
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1981
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001981-0121

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 井田 隆章 主査 小林 規威 教授
(鹿島建設株式会社) 副査 和田 充夫 助教授
所属ゼミナール 小林 規威 研 奥村 昭博 助教授

国際化過程における海外組織展開の若干の考察 —大手建設業の海外組織展開の現状と今後の方向性の検討を中心として—

私は、我が国の建設業にみる国際化の発展と組織展開との間には合理的な関係があるという基本的な考え方を持っていた。そこで、私は、本研究の目的として、我が国の大手建設業が、実際、国際化の発展に伴い、海外組織展開をどのように変化させ、対応させているかを明らかにしようと考えた。

私は、この前提に基づき、最初に理論研究を行ない、内外の種々の研究を検討し、私なりの理論的フレームワークを設けて、仮説を設定した。私は、仮説では、大手建設業の海外経営組織の変革に関する問題とその要因の明示を中心とした五つの説を設けた。続いて、私は、これらの仮説の検証を目的として、事例研究を行なった。そのため私は、日本の代表的大手建設業12社を選定し、資料、アンケート、面接の各調査を行ない分析を進めた。ここでは、各社の過去の業績、海外実績を把握し、又各社の海外部門組織の変化を把握、その類型化を試み、その組織展開は、仮説の通りに変革の過程を示しているのか検討した。そして私は、これらの海外組織展開の変化と海外実績を示す、各指標との関連を個々に分析した。さらに、私は、日本の建設業の今後の海外事業展開を探る参考とするため、米国の大手建設業6社の海外実績や海外組織展開の実態の分析も試みた。

以上の分析結果と面接調査結果から、私は仮説の検証を行なった。その結果、私は我が国の大手建設業は、初期の国際化過程の中で、「海外受注高の程度の拡大」と「海外事業分野の拡大」の圧力で「海外部型」から「海外事業部型」に変革させる事。さらに「海外受注高の程度と地理的展開の程度との複合した拡大」と「トップの戦略的判断」から「海外事業部型」から「国際事業部型」に変革させていく事が解明できたと思う。

他方、我が国の大手建設業は、今後も国内市場重視戦略は変えず、グローバル化していくと予想する事が困難である事も明らかになった。